

神奈川県山梨教会連合会誌より

かりん

「おかげの中に生かされて」

鈴木重光先生は、昭和 7 年に二代野毛教会長幸之助師、三代教会長祐師の長男として出生されました。法政二高卒業後、商社で五十五才まで勤められました。

また、昭和四十二年に信子さんとご結婚され、一男をもうけられました。

退職後、昭和六十三年に金光教学院に入學。翌平成元年に金光教師を拝命。平成八年に四代教会長に就任されました。

Q お勤めを長く続けておられながら、退職され教師となられたきっかけは？

重光先生（以下：重） 母も高齢になり、信者の皆さんからの「後継者に」との強い信念と熱意に励まされてであったと思います。また、振り返ると、私は何度か死に出合った所を紙一重で助けて頂いていました。子供の時は空襲や遊んでいる最中に危ない目にあったり、そういった神様からお繰り合わせ頂いてきたことを有難く感じています。

Q 一番おかげ頂いたな、と感じた時は？

重：一番おかげを頂いたと感じたのは、東京オリンピックの前年、昭和三十八年に起こった鶴見脱線衝突事故の時でした。当時は、事故の約三カ月前から、都内の

数寄屋橋店でカメラ販売の仕事をする事になり、横須賀線で新橋まで通勤していました。いつも通りに仕事を終

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第 31 回 野毛教会 鈴木重光先生



が一番被害が大きかったらしく、死者一六一名ということを見ると、死んでいたかもしれません。しかし、その日は偶然食事に誘われていて、いつも乗る電車に乗らなかったのです。というのも、フィルム現像所の社員が、

えて新橋駅九時三十九分発の横須賀線で帰っていたら、間違はなく事故に巻き込まれていたのです。車両もいつも乗る 5 両目

店からの顧客のフィルムを紛失する重大なミスをしてしまい、その男が泣きながら謝る姿を見て「可哀想だ」と感じ、自分が代表して迷惑をかけた顧客六軒に、菓子折りを持って一緒に謝りにいきました。それを恩に感じた現像所の会社の上の方が、お礼をしたいと私を食事に誘って下さったのが事故当日の夜でした。

「可哀想だ」と人を思う心に、神様のお働きが現れ、自分が救われたのだと。また、そこで事故にあっていたら、今の自分もなかったかもしれない。今思い返しても思いません。

Q 最近手術をなされたそうですね。

重：昨年の二月に腰を、七月に股関節を手術しました。だんだんとよくなってきてはいますが、外では転んで骨折などしないよう杖をつけて歩いています。

妻も三年前に股関節の手術をしましたが、二人とも元気に、おかげの中で生かされています。

四年後に野毛教会開教百年を迎えさせて頂きます。今までおかげを頂いてきたことに感謝しつつ、ありがたく記念祭を迎えさせて頂きたいと願っております。

○ありがとうございました。（今村則子）



私は教師になる以前、長いことレストラン業に携わっていた。商売には利潤の追求という明確な目的があつて、売り手と買い手の関係は、業種に関わらず存在する。それらに共通して言えるのは、顧客の欲しい物が提供できれば会社は儲かり、できなければいづれ潰れるということ。会社の運命を左右する、お客様は神様である。

ところが今は本物の神様の御用にお使い頂いている。日々の御用を頂いている国際センターで、最近恐ろしく感じるのは、油断をすると御用が作業になるということである。

御用は仕事と違い、ソロバン勘定で善し悪しが決まらず、結果がグラフに表れることもない。ここに落とし穴がある。

国際センターの御用は、主に日本と海外の教会との橋渡し、翻訳作業、海外布教のための布教材の作成、調査・情報収集、広報活動に人材育成、その他諸々と多岐に渡り、また大抵はパソコンに向かつての御用が多く事務的でもあり、急な御用を立て続けに頂いたときなどは、しっかりと御用の内容を噛みしめていないと、締め切りに心をとられて効率ばかりを求め、ついつい作業になつてしまう。御用が作業になるとは、そこ

御用を通し今思うこと

横須賀教会 木本雅史

から祈りが抜け落ちるということである。例えば、日本語でも難解な原稿の英訳作業に没頭中、頭脳の疲労も限界に差し掛かった頃に、コンピュータが誤作動を起こし、原稿が消える。思わず「糞が」という。いかに不徳の私でも、お広前ではそんな言葉は出ない。お広前の雰囲気は、そこに在るだけで身体的に御用への自覚を喚起するが、相手が機械だとそうもいかない。お広前も、お結界も、事務所も、等しく尊い御用の場であるはずなのに、私は忙しくなるとその本質を見失い、挙げ句の果てに「糞が」などという、およそ教師に相応しからぬ言葉を吐いては、自らの不徳を露呈する。

その点、他の職員は心がけが違う。何かにつけて咄嗟に「金光様」と唱えている。湯飲みを倒しそうになつて「金光様」。本棚から引き抜いた拍子に何冊か落ちそうになつて「金光様」。パソコンが誤作動を起こして「金光様」。咄嗟に口をついて出ると

いうことは、頭で考えているのではなく、身体に染みついていくこと。こうした一瞬が、信心の内面を鮮やかに切り取る。同じパソコンの誤作動でも、私は「糞が」、かたや「金光様」である。御用が御用となるように、常に自問自答し、精進しなければならない。

かりんの輪

「祖父の祈りを今に」

鎌倉教会 伊藤かおる

十二年前、私は夫の転勤により、四十年余り住み慣れた関西から関東へ参り、鎌倉に住居を持つご縁を頂きました。しばらくして、関西から母を新居に呼んだ折、祖父から受け継いだ筋金入りの信心家の母が、鎌倉教会参拝の道筋をつけてくれました。

鎌倉というところは、古都というだけでなく、戦火を免れた事情もあつてか、なかなか親しみにくい独特の雰囲気があり、会長も五十余年前、名古屋から嫁いでこられ、いろいろご苦労があつたようです。しかし、その中、私は一人息子の小学校、中学校の通学も差し支えなく、教会参拝もおかげ頂ける場所に、住まいを持つ有り難さを感じました。

その後、会社の都合で移転することになった時、漁業をされている信徒の方のお世話を借りることになりましたが、家主さんが関西の人であつたりと、何もかもお繰り合わせを頂いての海浜生活に恵まれました。そして、四年ほど経った頃に、姑の脳梗塞発症を機に、札幌で暮らしていた夫の両親を迎えての同居をスタートするにあたって、おかげを頂き、今に至っております。

〇「首都圏女性の集い」報告

2月11日(祝)、恒例の「首都圏女性の集い」が東京教会地下・イーストホールで開催されました。

今年は、柏教会の長井町子先生のお話を拝聴しました。大阪人が二人寄ると漫才になる、と言われますが、大阪出身の町子先生のお話は、ユーモアにあふれて随所に笑いがあり、反面涙なくしては聴けないという部分も多くて、笑ったり泣いたり、思いつきり感動させて頂きました。

短い字数と私の筆力では、この感動を的確にお伝えできないのですが、開拓布教の厳しさ、それを支える金光護佑先生と町子先生の絆の素晴らしさ、町子先生と4人のお子さん方との心豊かな交流。中でも全身の毛という毛がすべて抜け落ちるという原因不明の病気に罹られて、とりあえずめまいが治まったので、船橋教会に参拝、護佑先生にお会いになった時、「ご修行じやったなあ」とおっしゃった。その時、自分は修行していると思っていたけれど、違った、この方がどんなにか私のことを祈り支えて下さっていたのか、と心底から有難く思った。帰り道、「教え導くというような取次者にはなれなくても、信者と共に悩み、祈り、おかげ頂いていこう、そういう取次者に育てて頂こう」と思った、と語られました。つくづく信心は感動だと思えます。み教え通り、船にも車にも積めないおかげを頂いた半日でした。来年はこの感動を、あなたもぜひご自身で体感なさって下さい。

(大塚東子)

「おつちもつて、いそいそな。」

小田原教会 宮川 晴江

私は、愛媛県・川上教会の子弟で、昨年12月に小田原教会教会長の宮川昌也先生と結婚の御縁をいただき、小田原へ越して参りました。昌也先生とは、金光教学院(金光教教師育成機関)の同期生になります。

学院卒業後、金光教国際センターで2年半御用させて頂いていただきました。その間、様々な会議へ出席し、また教会参拝させていただいたことで関東の先生や信徒の方々とお会いしお話しする機会に恵まれました。この間の御縁がきっかけで、昨年、鎌倉芸術館で開催された神奈川山梨布教120年記念集の吉備舞の演目『箴乃梅(えびらのうめ)』の無人として声をかけていただきました。

一つの出会いや御用が、後に自分の想像を超えて繋がりました。まさに『神量らいは奇しくて人の思いぞ及ばざる』です。吉備舞の御用は3歳から母の指導で始めました。記憶はなく、物心ついたころには扇を握っていました。一時は、吉備舞の御用が嫌で辞めたい時期もありましたが、今ではこの御用をありがたく感じており、続けさせてくれた両親に感謝しています。母の指導から、吉備舞を通して子どもたちにも一度でも多く神様とふれる機会をつくり、技術と共に信仰心を養うこと。そして、幼くても神様へ御礼の気持ちを表す御用ができることを教わりました。これまで教わったことを、いろいろな形で少しでも次へ伝えられるような御用をさせて頂いてほしいと願っております。どうぞよろしくお願致します。

また、私は、教会長が前々から関わっておられる『かまくらベルの会』という会の一員として、独居老人宅に心こもる弁当を車で配達することで、お役に立たせて頂いたり、週に二日、養護老人介護施設での調理場の手伝い等を、両親との同居後も続けることができています。同居当初は、精神的に不安定な姑と、老齡特有の失態も起こされる舅との関わりで大騒動になった事もありましたが、その折々に、教会へ走り、一つ一つ御取次を頂いた結果、今日があります。信心に縁のなかつた夫も、三年前の教会の八十年の記念祭から御縁を頂き、また、体の不自由な姑も、教会の広前は心が安らぐよう、時折、車で同道させてもらっています。

関西で一人暮らしの八十三歳の母も、元氣のおかげを頂き、電車に乗る距離にある教会に日参させて頂いております。昨年十二月の輔教任命式には、母娘一緒に参列させて頂くこととなり、神様の申し召しをこれほど嬉しく思ったことはありません。幼かった頃の母方の祖父との教会へのお参りも懐かしく、祖父の祈りが今に繋がってきたのだと、しみじみと感じる日々です。私は、ここからの御用を、ここからの信心を、神様への御返しという意味も込めて、進めさせて頂いてまいりたいと願っております。



平成25年度

天地金乃神大祭日程

教会名	日	程
津久井教会	4月6日(土)	13時00分
甲府教会	4月21日(日)	13時30分
南甲府教会	4月22日(月)	11時00分
藤沢教会	4月24日(水)	11時00分
鎌倉教会	4月28日(日)	13時30分
川崎教会	4月28日(日)	13時00分
登戸教会	4月28日(日)	13時00分
横浜西教会	4月28日(日)	13時30分
大明教会	4月29日(祝)	13時30分
横須賀教会	5月3日(祝)	13時30分
子安教会	5月3日(祝)	13時30分
丸子教会	5月3日(祝)	13時00分
相模原教会	5月3日(祝)	14時00分
生麦教会	5月5日(祝)	13時00分
鶴見教会	5月11日(土)	13時00分
大磯教会	5月14日(火)	13時00分
野毛教会	5月18日(土)	13時30分
平塚教会	5月19日(日)	13時00分
小田原教会	5月25日(土)	14時00分
神奈川教会	5月25日(土)	11時30分
武蔵小杉教会	5月26日(日)	11時00分

【お知らせ】

神奈川山梨教会連合会では、今年度も各種行事を開催する予定です。
多くの皆様のご参加をお待ちしていますので、どうぞお運びください。

○女性のつどい

日時 7月5日(金) 午後1時
会場 生麦教会

内容 仲宗根三重子さんのお話と懇談

○みんなのつどい

日時 7月27日(土) 午前10時

会場 丹沢湖付近キャンプ場

内容 マスつかみどり

他、教祖130年を迎えるの記念行事が、当連合会や東京都連、首都圏フォーラムでも行われます。

右記の行事や教祖130年記念行事の詳細については、既に各教会宛送付されているもの、あるいは、これから送付されます各行事の案内をご参照ください。

計 報

金光教川崎教会長 藤田一文先生が、三月二十五日、七十五歳にてご帰幽になられました。
ここに謹んで哀悼の意を表し、お知らせいたします。

く な が れ

『神様ありがとう』

登戸教会 和田我八十

人生は、思いがけないことが起きることも多い。思えば、25歳の時、突然、くも膜下出血で倒れ、三日の手術で命を頂くと宣告された。約八年、杖歩も支えられず、奇跡的な回復を遂げた。杖歩も支えられず、年々、その年に大山の紅葉を見に行く計画を立てたが、事業所の都合で行けず、去年も同じ計画を立てる。四段階の歩み。驚くことに、登山にならなかつた。一段の歩み。度々、張つて登つた。ずんずん、張つて登つた。紅葉を見て、僕は、真つ赤に染まる。紅葉を見て、僕は、真つ赤に染まる。支えてくれた、僕は、真つ赤に染まる。気がつく、僕は、真つ赤に染まる。すね、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。十、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。紅、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。赤、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。さ、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。か、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。力、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。能的、張つて登つた。僕は、真つ赤に染まる。今年、教会で頂いた御教えは『神様とともに生きる』でした。神様ありがとう！

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

〒 221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五

金光教神奈川教会内